

2 0 2 5 年度

事 業 計 画

自：2 0 2 5 年 4 月 1 日

至：2 0 2 6 年 3 月 3 1 日

2025年度（令和7年度）事業計画書

公益財団法人大阪ユースホステル協会では、2025年度も「青少年の健全育成」に積極的に取り組んでまいります。現在、提案しているプログラムや事業に加え新たに利用者ニーズをとらえた提案を発信、また社会貢献を意識しながら防災・減災の観点をもったプログラムを提案してまいります。

各々違う立地・特色をもった4施設の各々の強みを活かしながら、かつ大阪ユースホステル協会としての総合力を発揮し、「利用者に必要とされる」施設として一層の努力をしてまいります。

基本方針

1. 青少年育成の取り組み

4施設において各種主催事業や青少年事業を通じて、ユースホステル運動の推進と青少年の健全育成に取り組んでまいります。また、日本ユースホステル協会・近畿ブロックユースホステル協会と連携して青少年対象事業を共同企画・広報強化に取り組めます。

2. 利用者ニーズに沿った事業・施設運営

現在利用の中心となっている学校団体や青少年団体またスポーツ団体の為の活動・宿泊施設として、また社会人団体・企業団体の研修施設として、さらには国内外からの旅行者のための快適な宿泊滞在施設として、より一層満足度向上を目指します。利用者にとって快適なサービスを提供し「ユースホステル」「関西・大阪」の魅力を存分に感じていただけるよう改善・工夫を重ねるとともに、利用者の安心・安全を最優先に計画的に施設の整備・改修・修繕をすすめていきます。

3. 新たな取り組みの開始

刻々と変化する社会情勢および利用者ニーズを敏感にとらえ、しっかりと反映した新たな企画を提案してまいります。また「大阪・関西万博」を機に国内外から来阪する利用者に対して満足度が高いサービスを提供し、リピーターの獲得や口コミによる評価の拡がりを目指します。

少年自然の家の次期指定管理者の公募が行われるため、引続き運営主体となるべく応募、獲得を目指します。

協会内の体制としては、活動する意義・目的を周知徹底することで職員の活動に対する積極的な取り組み姿勢を促進します。また健全かつ活発な職場づくりを目指して、働き方改革を推進し就業規則や人事制度の見直しを実施いたします。

事業計画

1. ユースホステル運動

ユースホステルおよび青少年施設の管理運営を行い、国内外の青少年および青少年を取り巻く幅広い年齢層の方々の施設利用を通じて青少年の健全育成を図ります。ますます増加が見込まれる訪日外国人の利用促進をはかり、国際交流の担い手として力を発揮します。

2. ユースホステル協会の運営と事業展開

「大阪・関西万博」を控え、万全の受け入れ態勢を整え飛躍の1年とします。また同時に従来からの利用者を大切にするとともに新たな顧客層の開拓を行い、継続的に発展するための各種方策を企画・実践し、管理運営している4つの事業部（ユースホステルおよび青少年施設）の堅牢な地盤作りに努めます。

世間の例に漏れず人手不足は否めませんが、新入職員には専任担当として先輩職員がつき、育成に力を入れます。

（1）組織運営と魅力の向上

- ① 職員の新規採用
- ② 業務の効率化（IT化とペーパーレス化の推進）
- ③ 職員の処遇改善とスキルアップのための研修等諸策
- ④ 働き方改革に基づく就業規則・人事制度等の見直し
- ⑤ ボランティアリーダーの募集と育成
- ⑥ 新規事業や新規宿泊プランの開発

（2）地域・行政・機関との連携

- ① 日本ユースホステル協会との連携と相互協力
- ② 近畿ブロックユースホステル協議会の一員としての活動
- ③ 大阪府・大阪市など指定管理委託者との調整
- ④ 関係各機関との連携と相互協力
 - ・ 青少年活動団体・野外活動団体・子ども会・青少年施設
 - ・ 運動に理解のある企業・団体・組織等
- ⑤ イベントへの参加・出展
 - ・ モンベルフェアや大阪市こどもカーニバルなど

- ⑥ 大阪府観光局との連携（資料提供・広報・研修会・商談会等）
- ⑦ 大学ユースホステルクラブの活動支援と相互協力
- ⑧ 大阪（関西）の地産食材を活用した食事メニューの開発と提供

（３）利用促進・広報活動

- ① ４施設で連携した大阪ユースホステル協会全体としての営業・広報
- ② SNS等に活動を発信している各種スポーツ・文化団体に、合宿や遠征の利用を促す直接的なアプローチ
- ③ 統一された宿泊予約システムによる各施設間の相互連携と送客

（４）事業の企画と実施

① こども事業

各施設をベースに、その環境・立地・プログラムを活かした子どもおよび子どもを含む親子を対象とした事業を実施するとともに、それら指導者の育成事業も行います。

② ウォーキング事業

しばらく休止していたウォーキング事業ですが、羽衣事業部を中核とし、「街道ウォーク」への取組みから始めます。

③ 社会貢献事業

主に各施設周辺の住民の方々に施設開放を行う「オープンデー」の実施の他、「キッズカフェ（子ども食堂）」の一層の定着化を行います。また、日本ユースホステル協会が推進する「全ての子どもに旅を贈ろう」というチャリティー企画を賛同する複数の主要なユースホステルと歩調を合わせ継続実施をします。

④ 会員サービス事業

- ・旅行相談会
- ・海外からの旅行者に向けたインフォメーション活動や日本文化の体験活動

3, 新大阪事業部(大阪市立青少年センター・新大阪ユースホステル)

当施設の特徴を生かし、ホールや録音設備のあるスタジオの利用増進により力を入れます。特に録音利用については、クラシックはじめデモ録音の増加につなげるための企画を作成、WEBサイトでは専用ページにて広報します。貸室と宿泊の併用利用の促進にも力を入れ、学校のクラブ合宿等の誘致に継続して取組むとともに、定期利用につなげてまいります。この他、より利用しやすい施設を目指し、設備備品、付属設備を更新し充実させることにも努めます。

宿泊（新大阪ユースホステル）部門では、団体旅行や教育旅行を取扱う旅行代理店やインバウンド専門のエージェント等に営業活動を行います。特に合宿利用の新規獲得を目指し、スポーツやゼミ合宿など各ジャンルに特化した施設検索サイトに登録します。きめ細かくPRすることで知名度の向上をはかり集客につなげます。館内のLED化、カーペットの張替えなど施設のメンテナンスを進め快適に過ごせる空間を提供するとともに、利用者のニーズの把握し貸出備品を充実させ、顧客満足度を上げリピーター数の宿泊増に取り組めます。

ココカフェについてはヴィーガン、グルテンフリー等に対応した食事の開発や客単価の高い宴会利用の周知、販売強化とステージを活かしたライブやイベントスペースとしてのレンタルの強化、飲食提供ができる会議室・セミナー会場・イベント会場として運営します。人数、食数の多い場合や複数のお客様のご予約の希望がある場合に、カフェとユースホステルの食堂の同時稼働で対応できる態勢を構築します

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① アンケートや聞き取り調査による利用者ニーズの把握と、それに伴う設備・備品の更新とサービスの向上
- ② 録音利用に向けた魅力の発信
- ③ 反応の大きい小中学生応援宿泊プランの継続と、新たなニーズ発掘へ向けた魅力ある宿泊パックの企画
- ④ 宿泊者向けのイベントの定期開催
- ⑤ 宿泊・貸室・カフェを相互補完するセットプランの開発

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 施設の市民開放イベント（KOKO 秋フェスティバル）の実施
- ② 地域の祭り（夏・秋・春）への出展と運営協力
- ③ 小学校の職業体験・特別支援学校の体験学習等の受入
- ④ 大阪市社会福祉協議会・フードバンクとの連携（子ども食堂「キッズカフェ」）

(3) 利用促進・広報活動

- ① 併用利用の強化・促進（宿泊と会議、合宿、研修など）
- ② 大阪市広報誌「いちょう並木」への掲載
- ③ 周辺小学校へのこども対象事業の情報提供や各種施設へのチラシの設置
- ④ ホームページや SNS による広報
- ⑤ 宿泊パッケージプラン
 - ・小中学生応援宿泊パック・家族&グループプラン・夜行バスプラン・ライブ&観劇応援プラン、観戦プラン等
- ⑥ 日本ユースホステル協会や近畿ブロックユースホステル協議会を通じた広報
- ⑦ 合宿検索サイトに掲載

(4) 事業の企画と実施

- ① こども・青少年対象事業
 - ・ここぷらキッズイベント 年間を通じ6回
 - ・KIDS DANCE（初級・中級） 通年
 - ・中高生向けコーラスワークショップ 通年
 - ・七夕（短冊に願いを記し笹に飾る） 7月
- ② 家族対象事業
 - ・キッズカフェ（子ども食堂） 月4回
- ③ 一般対象事業
 - ・KOKOでうたおう！童謡ひろば 毎月
 - ・カルチャー教室（ピアノ教室ほか） 通年
 - ・ふんふん寄席 in KOKO 隔月
 - ・フォークソングナイト 隔月
 - ・相手に伝わる表現ワークショップ 毎月
 - ・KOKO de CONCERT 年間を通じ3回
 - ・KOKO秋フェスティバル 10月
 - ・サンクスギビングフェスタ（施設練習利用者の発表会） 3月
 - ・年末年始イベント（宿泊者対象） 12・1月

(5) 利用獲得目標

	2025年目標	2024年見込	2018実績
貸室(文化ゾーン)	165,000人	164,100人	243,850人
稼働率	45%	44%	
宿泊(新大阪ユースホステル)	19,000人	18,000人	20,412人
稼働率	42%	40%	
ココカフェ(売上高)	11,000千円	10,000千円	26,830千円

4、羽衣事業部(大阪国際ユースホステル・羽衣青少年センター)

利用促進への取組みとして、団体宿泊利用のさらなる獲得、炊さん場の利用増、自主事業の収益増を重点目標にするとともに、従来の利用者層のみならず、未来志向で新たな需要の開拓を行います。また、近隣施設やボランティアとの協働、普段できない体験活動の提供、世代間交流などのプログラムを引き続き提供し、青少年施設としての存在感をアピールします。

施設の管理面では、開業から28年経過し目立ち始めた老朽化への対応が必要となってきました。修繕や更新を行うにあたって、新たなニーズの開拓や、今後の青少年施設のあり方や可能性なども念頭に進めてまいります。

また、働きやすい職場作りへのアプローチとして、労働時間の見直しと生産性の向上のため、ルーティーンワークの見直しと効率化、外部研修への参加も含めたスタッフのスキル向上のための取組を行います。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① 新予約システムの導入
- ② 高圧受電設備のオーバーホール（5か年計画の3年目）
- ③ スタジオ(大)の空調入替
- ④ 施設照明のLED化推進
- ⑤ 宿泊棟洗面台の排水管の交換
- ⑥ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取組み
- ⑦ オリエンテーションやポスター掲示等による節電・節水等を啓発
- ⑧ 新規ボランティアの募集と育成

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 浜寺公園をはじめ近隣の各種施設、高石市をはじめとする行政機関との連携を深め、事業やイベント、情報交換などにつとめます。
- ② 近隣小学校の街探索（見学）の受け入れ
- ③ 近隣の大学と連携した事業の実施

(3) 利用促進・広報活動

- ① 学校やインバウンド団体へ定期的な誘致営業の継続
- ② 過去利用団体の再利用に向けた営業活動の継続
- ③ スポーツ団体誘致活動の実施
- ④ SNSを活用した広報活動の継続
- ⑥ 公園利用者をターゲットにしたランチ提供
- ⑦ 高石市教育委員会の協力のもと、青少年育成会等での広報活動

- ⑧ 大阪ユースホステル協会の主要な実施事業であるウォーキングについて、羽衣事業部を核として再開

(4) 事業の企画と実施

- ① こども対象
- ・はごろもキッズキャンプ 年間を通じ2回 8、3月
 - ・キッズクッキング 1～3月 3回×1コース
- ② 家族対象
- ・アウトドアクッキング 6月
 - ・親子で防災 9月
- ③ 成人対象
- ・教室事業
 - （ヨガ・ピラティス） 24教室
 - ・歌レク（食事付2回） 8月を除く毎月
 - ・寄席 6月
 - ・はごろも健全麻雀クラブ 18教室
- ④ 地域と連携した施設開放の事業
- ・友×遊フェスティバル 12月
- ⑤ 宿泊者を対象とした事業
- ・大晦日の宿泊イベント 12月
 - ・もちつき 1月
- ⑥ 食堂を利用したイベント
- ・日本酒と日本酒にあう食事を楽しもう 2月
 - ・オクトーバーフェスト 10月
- ⑦ 大阪ユースホステル協会としての取組み
- ・社会貢献事業(全国キーホステルネットワークとの連携) 12月
 - ・ウォーキング事業(街道ウォーク) 5月・10月

(5) 利用獲得目標

	2025年度目標	2024年度見込	2018年度実績
羽衣青少年センター 稼働率	81,500人 18%	74,050人 15%	133,814人 25%
大阪国際ユースホステル 稼働率	20,000人 26%	16,500人 21%	24,140人 31%

5, 貝塚事業部（大阪府立少年自然の家）

少年自然の家の社会的役割を果たすと共に、施設特性を最大限生かすために、引き続き学校団体、青少年団体、スポーツ団体などへの積極的な働きかけを行います。一方、バス料金の高騰で学校団体の林間学校等野外活動の見直しが相次ぎ、利用控えも見込まれるため、従来の学校団体を中心に据えた運営方針だけに頼ることなく、新たに企業研修・ワーケーション・長期滞在の受入れ・インバウンドの誘致を強化します。特に研修施設として、企業や大学の新入生を対象にチームビルディングやリーダー育成研修などに対応できる環境を整備・差別化し、施設の新たなポテンシャルとしてアピールします。

また、自主事業をさらに充実させ、特に好評をいただいている『フォレストジュニアクラブ』や『もりのこクラブ』の継続や、家族を対象としたお泊りパックの機会増大をはかります。

さらに、2025年度は2026年度からの新たな指定管理者募集の年となりますので、積極的かつ進歩的な提案を行い、引き続き指定管理者に選定されることを目指します。

（1）施設の管理運営と魅力の向上

- ① 森林・登山道・テントサイトなど屋外施設の整備と充実
- ② 更新を迎えた屋内施設・設備の整備（老朽化部分は大阪府と協議の上行う）
- ③ HACCP基準に基づく食堂の衛生管理
- ④ 多様な食事ニーズへの対応（アレルギー・摂食障がい・宗教や信条による禁忌への対応など）
- ⑤ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取組み
- ⑥ 実施事業や利用者支援を行うボランティアリーダーに対する定期的な研修など、スキルアップのためのサポート体制の確立
- ⑦ 顧客満足度アップを図るための新規プログラムの開発や食事メニューの更新

（2）地域・行政・機関との連携

- ① 出前講座の実施により、施設外においても体験活動を推進する
- ② 学校・行政・地域（公民館・子ども会等）への講師派遣
- ③ 大学生のインターンシップの受入
- ④ 障がい者の就労実習の場を提供
- ⑤ 「貝塚自然遊学館」「いぶきヴィレッジ」など近隣諸施設との連携
- ⑥ 自然の家オープンデーを通じての企業・団体との連携

(3) 利用促進・広報活動

- ① YouTube 等動画プラットフォームを利用した配信による施設の紹介や魅力の発信
- ② 学校・旅行代理店の教育旅行部門・インバウンド受入を取り扱う旅行エージェントへの営業活動や、専門サイトへの登録・掲載
- ③ ホームページの随時更新、SNSによる情報発信等によるフォロワー増への取組み

(4) 事業の企画と実施

- ① 子ども対象
 - ・フォレストジュニアクラブ 年間を通じ4回
 - ・こどもシャワークライミング 7月に2回
 - ・こどもワイルドキャンプ 8月
 - ・中高生チャレンジキャンプ 8月
 - ・クリエイターキャンプ 12月
- ② 家族対象
 - ・親子deしぜんのようちえん 年間を通じ4回
 - ・ファミリーキャンプ 10月
 - ・もりのこクラブ 年間を通じ4回
 - ・家族でたき火を楽しもう 1・2月に計4回
 - ・防災キャンプ 9月
- ③ 指導者養成
 - ・野外活動指導者講習会 1月
- ④ 知的障がいのある子どもの支援
 - ・障がい者向け事業 10月
- ⑤ 対象や年齢を限定せず府民が気軽に参加できるイベント
 - ・ホテル観賞のタベ＊ 6月に4回
 - ・流しそうめん体験＊ 8月に9回
 - ・ダッジオープンで野外料理にチャレンジ＊ 12月に2回
 - ・宿泊パック 年間6回程度
- ⑥ 野外活動と他分野の融合
 - ・絵本に登場する料理を作ろう＊ 5月に2回
 - ・えほんのひろば 2月
- ⑦ 大人向けの自然体験活動
 - ・女性のためのソロキャンプ 10月
 - ・おとなのえんそく 8月・11月
 - ・シルバー生涯学習DAY 申込みに応じ随時
- ⑧ 地域・行政・企業他との連携事業
 - ・大阪府アドプトフォレスト 11月
 - ・自然の家オープンデー 2月

- ・おおさか元気広場 出前講座 申込みに応じ随時
- ・インターンシップ(就労体験)推進事業 申込みに応じ随時
- ・自然の家専属指導者育成事業 年3回

* 印：バーベキューガーデンイベントとして実施

(5) 利用獲得目標

	2025年度 目標	2024年度 見込	2018年度 実績
日帰りおよび宿泊利用	87,000人	91,000人	94,290人

＜共同事業体 一般財団法人大阪府青少年活動財団＞

6. 長居事業部（大阪市立長居ユースホステル）

インバウンド需要の増大に加え、2025年度は大阪・関西万博開催に伴い、国内外から多数の利用が見込まれます。ラウンジや読書コーナーの設置や日本文化体験の提供など、満足度の高いサービスと居心地の良い滞在を提供することで、万博後も長居ユースホステルが旅の拠点としてご利用いただけるよう運営します。

また、新たに始める「キッズクッキング」他、自主事業を充実させます。長居公園内の他施設とのコラボレーションも、セレッソ大阪やヤンマースタジアム長居の全面協力を得て実施する看板事業「サッカーキャンプ」を軸に、積極的に推進します。ただ単に宿泊するだけではない、国際的にもユースホステルが理念としている「ほんものの体験と発見」を展開していきます。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① 宿泊者専用ラウンジの設置（珈琲や緑茶などフリーで提供）
- ② 青少年健全育成の一環として読書・学習コーナーの設置
- ③ 世界中の特徴のあるユースホステルの紹介と展示コーナーの設置
- ④ 館内スリッパを地球環境に配慮したEVA素材の物に変更
- ⑤ 団体宿泊の事前調整や見積書等のやり取りを完全IT化

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 長居公園施設全体の運営会議の実施（月1回）
- ② 東住吉区役所の区民企画課と連携した防災イベントの実施
- ③ 子どもたちだけで作る地域情報誌『うっところ』の発表の場として、

長居ユースホステルの集会室を提供

- ④ 近隣中学校からインターンシッププログラムの受け入れ
- ⑤ NPO法人大阪府高齢者大学校と連携し、長居ユースホステルの集会室を会場とした講座を開校し、シニア層への学びの機会の提供
- ⑥ 東住吉警察署と連携し、不審者対策として定期巡回の依頼

(3) 利用促進・広報活動

- ① ヤンマースタジアム長居と連携し、事前予約制で宿泊者限定スタジアム見学ツアーの実施
- ② 自然史博物館の特別展とタイアップした宿泊パックの販売
- ③ 地域専門のNETライターと連携したイベント情報発信
- ④ 大阪関西万博開催でインバウンド特需におけるネット検索エンジン上位にヒットする仕掛けと工夫
- ⑤ インバウンド団体の宿泊スケジュールに合わせた、日本文化体験の提供（ISCボランティア活動）
- ⑥ SNSを活用した広報活動の継続
- ⑦ 大阪市広報誌『いちょう並木』、広報東住吉『なでしこ』、東住吉区生涯学習情報誌へのイベント掲載

(4) 事業の企画と実施

- ① 子ども対象
 - ・KIDSDANCEリトルコース（毎週金曜） 通年
 - ・KIDSDANCEキッズコース（毎週金曜） 通年
 - ・KIDSDANCEティーンコース（毎週金曜） 通年
 - ・サッカーキャンプ2025冬 年1回
- ② 一般対象
 - ・ツボ・優しいヨガ（毎週木曜） 通年
 - ・健康体操ヨガ総合コース（毎週木曜） 通年
 - ・ReフレッシュヨガAコース（毎週木曜） 通年
 - ・健康体操ヨガAコース（毎週金曜） 通年
 - ・健康体操ヨガBコース（毎週金曜） 通年
 - ・ReフレッシュヨガBコース（毎週金曜） 通年
 - ・ふれあい卓球（毎週火・金曜） 通年
 - ・みんなで歌おうin長居 年4回
- ③ 食堂を利用したイベント
 - ・長居キッズクッキング 年4回
 - ・長居植物園とのコラボ弁当 年5回

(5) 利用獲得目標

	2025年度目標	2024年度見込
宿泊利用人数 稼働率	11,000人 35.5%	9,300人 30.0%
集会室稼働率	35.0%	32.0%

＜大阪ユースホステル協会は長居公園共同指定管理者
の一員として「大阪市立長居ユースホステル」を担当＞

以 上